

暗くないですか
防犯灯で街を明るく

市丸 市内の防犯灯の設置状況は。
答弁 行政区で1,740基、市では210基となっています。また各行政機関、商工団体などで設置されたものもあります。

市丸 電灯が切れた際の交換への補助も必要では。
答弁 まずは蛍光灯からLEDへの交換およびLED防犯灯の設置を優先していき、要望が落ち着いたら、電灯交換への補助も検討していきます。

市丸 幹線道路への防犯灯の増設が必要では。
答弁 緊急性・危険性の高いところから、必要な箇所に対し年次的に防犯灯を整備していきたいと考えています。

市丸 防犯灯設置への補助金を増額できないか。
答弁 予算が不足しないように、補助金の総額を検討していきたい。

市丸 防犯カメラ設置への補助はできないか。
答弁 今の時点では個人宅設置の防犯カメラへの補助は考えていません。

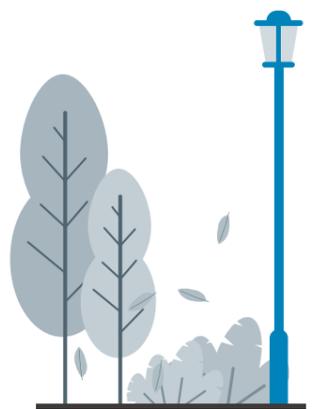
今後補助などについて研究していきたい。

市丸 登下校時の見守り活動での事故などへの補償は。
答弁 学校支援者補償制度に加入しており、見守り活動中のけがや事故にも保険が適用されます。

市丸 防犯灯により街を明るくし、事故が起こりにくいまちづくりを行い、防犯カメラで犯罪の抑制を図り、地域全体で安心・安全を高めていくことが必要で、行政としてソフト・ハード面でのしっかりした対応をお願いしたい。



市丸勝義 議員



多久の災害対策は大丈夫!?

田淵 消防庁の危機事態の初動対応に、トップである市町村長は全責任をもって陣頭指揮を取り、①駆けつける、②体制を作る、③状況を把握する、④目標・対策について判断する、⑤住民に呼びかける、とあるが、多久市の状況は。
答弁 注意情報発令の際は、防災安全課を軸に情報を共有し、佐賀気象庁や国土交通省武雄事務所などにホットラインで確認し、対応をしています。

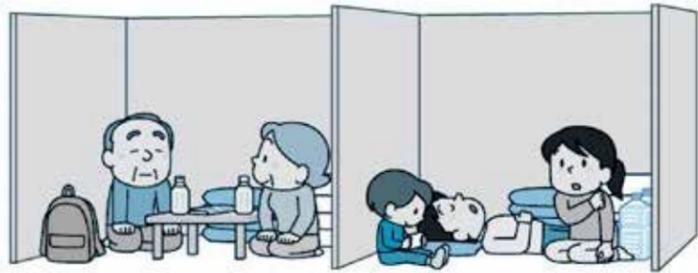
田淵 住民の安全を守るため、市長はどうされているか。
答弁 最も重要なことは、全てを市長が責任を持って行うこと。また、その覚悟を持って陣頭指揮を執っています。

田淵 聴覚障害者は防災無線などは聞き取れない。また、視覚障害者や車いす使用者は自力での行動は容易でない。避難所生活が長期になればストレスで健康状態の悪化も心配になるが、そうした対応は。
答弁 移動や情報伝達などの課題で、障害者の避難生活が困難となる



田淵厚 議員

場合は、市が指定した福祉避難所での対応や、福祉サービス提供事業者などと連携した避難支援体制の推進を図ります。



多久の農業の将来は

中島 耕作放棄地の現状について。
答弁 耕作されていない農地の荒廃化が進んでいる遊休農地、荒廃農地の解消に向け、担当地区を巡回し遊休農地が発生しないように、新たな耕作者につなぐ取り組みを行っています。令和5年度と比較すると遊休農地の面積は減少していますが、荒廃農地は7万筆、7万8,029㎡増えており農地の荒廃が進んでいます。

中島 農業の担い手(後継者)不足について。
答弁 人口減少という大きな課題もありますが、就業形態の変化による離農、農産品の価格低迷、資材・燃料費の高騰などでの収入の減少といった様々な要因があると認識しており、それぞれに対策をやっていきたいと考えています。

中島 儲かる農業への取り組みについて。
答弁 多久市農業再生協議会にて、収益性の高い作物の振興を図るために、国からの産地交付金の配分枠を定め、大豆に重点的に配分していま



中島國孝 議員

す。
この他に、国や県の事業を活用した農具機械や施設建設に対する支援を行い、農業の省力化、高収益化を図る農家への支援を行っています。



高齢者にやさしい支援を

坂口 令和6年度の子どもの医療費助成制度は。
答弁 中学生までは病院の窓口で支払いが完結する現物給付、高校生年代の医療費は償還払いです。

坂口 子育て世代の保護者の手続きの負担を減らすため、高校生年代まで現物給付の考えは。
答弁 子どもと保護者にとってより良い制度となるよう検討します。

坂口 ヒアリングフレイル(聞く力の衰え)はコミュニケーションの妨げとなり、認知症や社会的孤立につながるかとされています。ヒアリングフレイルに対する取り組みは。
答弁 ヒアリングフレイルに特化した事業は行ってませんが、認知症の発症リスクについて情報提供を行っています。

坂口 早期発見の取り組みは。
答弁 国において、難聴高齢者に関する調査研究モデル事業などが行われていますので、今後も国の動向を注視し、対応を検討していきます。



坂口絹代 議員

坂口 多久市は2025年には約40%の人が高齢者になります。高齢者や認知症の人に寄り添い、効果的な技法ユマニチュード(尊厳のある介護)を取り入れていく考えは。
答弁 ユマニチュードの4つの技法のうち、見る・話す・触れるの3項目については、市が実施している認知症サポーター養成講座の中で紹介しています。

坂口 若い世代には手厚く、高齢者には優しい支援がなされ住みよい多久市となることを願っています。

